

私たちの戦後70年談話

今年、2015年は戦後70周年の節目にあたります。私たちが生まれた年、1998年は終戦からおよそ半世紀もあとのことです。そんな、戦争をまったく体験していない私たちがいま、アジア太平洋戦争について感じていることを述べたいと思います。

アジア太平洋戦争、と聞くとまず東京大空襲で焼け野原になった東京の写真が思い浮かびます。写真の中の東京には、ぼつんぼつんと建物が点在しているだけで、黒焦げた何もない地面が広がっています。それは、そびえたつビルに囲まれ、途切れることのない人の流れのある、私たちの知っている東京とはまったく異なったものです。いまの東京からは、かつてこの地で空襲があったとは想像することもできません。今日の日本の発展の陰に戦争は隠れてしまっています。ともすれば、戦争があったという事自体も忘れそうになります。そして、それは私たちだけではないはずです。

しかし、決して忘れてはならないことがあると思います。それは、アジア太平洋戦争において日本が中国・朝鮮をはじめとした近隣の国々を侵略したということです。もちろん、植民地を求めたのは日本だけではありません。欧米列強もまた、数多くの国・地域を植民地として支配していました。しかし、他国の行為を理由に自国の侵略を正当化してはならないのです。侵略し、土地や食料を奪い、言葉を奪い、そして命を奪うということは、決して許されてはいけない行為です。日本も決して例外ではありません。

日本は過去の植民地支配について、特に中国や韓国といった国々と十分に和解し良好な関係を築けているとは言えません。その大きな原因のひとつは、多くの日本人がアジア太平洋戦争で日本が中国・朝鮮をはじめとした近隣の国々を侵略したという過去を遠い昔の出来事だと考え、見つめ直すことをせず、一部の日本人は配慮に欠いた行動をとってしまっているということにあるのではないのでしょうか。

和解に向けて、私たち日本人は個人として何ができるのでしょうか。2つの方法があると思います。

一つは、中国や韓国の人々と個人的なつながりを持つことだと思います。私には学校の国際交流で知り合った中国の友人がいます。アニメについて、恋愛について、勉

強について、将来についてなど、他愛のない話をします。そうして、国民同士が友好を築くことができれば、国家間の関係をも変えることができます。

そしてもう一つは、想像力を働かせることだと思います。中国や韓国の人々と個人的に関係をもつ機会のない人もいるかもしれませんが、しかし、想像力はいつでも、どこでも働かせることができます。言葉にしていれば何々人と無機質でも、毎日を生きて、喜怒哀楽を持った同じ人間だと想像を働かせれば、たとえ言葉や文化は違っても、大きなすれちがいを生むことはないはずで

アジア太平洋戦争をめぐるわだかまりは今なお日本と近隣の国々との間に暗い影を落とし続けています。しかし、アジア太平洋戦争は70年も前のことであることも事実です。だからこそ、戦争によるわだかまりを持たない私たち若い世代こそが、アジア太平洋戦争をめぐるわだかまりを断ち切ることができるのではないのでしょうか。私たちは和解を遠ざける偏った言動に胸を張ってNOを突きつけなければなりません。過去の侵略への反省をしっかりと受け継ぎながら、近隣の国々との間に、友好と協調、そして平和という新しい関係を築いていくこと、それこそがこれからの日本を担う私たち日本の若者の使命だと思います。

麻布高等学校二年

安彦賢、金城恒、劉弘毅